

# 安心の確立・成長の実現・自立自尊の埼玉へ

## 1. はじめに

現在、我が国は、人口減少・少子高齢社会の到来、急速に進むグローバル化、東日本大震災を機に顕在化したエネルギー問題など、さまざまな課題に直面しています。こうした課題を乗り越え時代の変化に対応した新たな社会モデルを構築していく必要があります。

本県では、現在、三大プロジェクトとして、創エネや省エネにより地域全体でエネルギーの地産地消を進める「埼玉エコタウンプロジェクト」、誰もが健康でいきいきと暮らせる「健康長寿埼玉プロジェクト」、女性の力が原動力となって経済の好循環が生まれる「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」を推進しています。これらの取組は、まさに大きな挑戦ですが、埼玉県が成功モデルを示すことで日本再生をリードしていきたいと考えています。

また、本県では、平成24年度に県が5年間に取り組むべき施策を体系化した「埼玉県5ヵ年計画－安心・成長・自立自尊の埼玉へ－」を策定しました。この計画に基づき「安心を実感する埼玉」、「チャンスあふれる埼玉」、「生活を楽しむ埼玉」の三つの将来像の実現を目指し、戦略的に政策を展開しています。

この目指すべき将来像を実現するためには何よりも「安心の確立」が欠かせません。このため、これまで想定していなかった事態も想定し、戦略の一つである「大規模災害への備え」に全力で取り組み、県民の安全を脅かす危機や災害への対応をしっかりと講じていきます。

また、本県においても高度経済成長期に整備された社会資本ストックの多くが今後一斉に更新時期を迎えることとなります。施設の長寿命化と修繕・更新事業の平準化を図り、既存の社会資本ストックを合理的かつ効率的に維持保全し、県民に安心を与え、埼玉の成長を支える社会基盤を次世代にしっかりと引き継いでいきます。

## 2. 安心・安全な県土づくりのために

### 【災害時の備え】

#### (1) 緊急輸送道路の対策

災害時の救助活動や支援物資の輸送では、広域交通基盤の確保が極めて重要なことから、緊急輸送道路の橋梁の耐震補強を進めています。県が管理する緊急輸送道路上で耐震補強工事が必要な132橋について、従来の計画を前倒しし、平成27年度までに耐震補強を完成させます。

また、県管理道路において地震による液状化により緊急輸送道路上のマンホールが浮上しないよう、対策を講じます。なお、対策が必要な163基については、当初目標より2年前倒しして平成25年度中に完了させます。

道路内の対策だけでなく、災害時に緊急輸送道路を閉塞する恐れがある沿道の民間建築物についても、県と市が連携して耐震化を促進し、平成27年度までに耐震性の確認を完了させる予定です。

#### (2) 川の消火基地の設置

阪神淡路大震災では、水道管が破断して消火栓が使用不能となってしまう、河川水を土嚢や瓦礫でせき止めて消火用水として使用した教訓があり

埼玉県知事 <sup>うえ</sup> 上 <sup>だ</sup> 田 <sup>きよ</sup> 清 <sup>し</sup> 司



ます。本県においても同様の事態が想定されるため、密集市街地を流れる河川に災害時の消防水利として「川の消火基地」を設置します。「川の消火基地」とは、消防ポンプ車が近づくことのできる河道に階段通路や取水ピット等を整備し、円滑な消防活動を可能にするものです。平成27年度までの3年間で100カ所の整備を行います。国の直轄河川においても設置することにより、甚大な火災被害が想定される県南部における市街地の約75%に消火用水の供給が可能となります。

#### 【社会資本の老朽化に対する備え】

本県では、今後の社会資本の維持管理・更新のあり方を示した「施設管理行動方針」を平成18年3月に策定しました。この行動方針に基づき、大きな損傷が発生する前に早めの対策を実施する「予防保全」の考え方を取り入れた「先取りの維持管理（アセットマネジメント）」を導入しています。

現在は、更新時の費用が膨大であり、かつ、老朽化が社会的に大きな影響をおよぼすこととなる「橋梁」と「排水機場」について、中長期管理計画を策定し予算の重点配分を行っています。

#### (1) 橋梁の計画的な修繕・更新

本県では、2,500橋余の橋梁を管理しており、このうち約4割にあたる1,030橋が高度経済成長期に集中的に建設されています。今後多くの橋梁で老朽化が進むと、一斉に大規模な修繕や更新の時期を迎えることとなります。

そこで、平成21年度に「埼玉県橋梁長寿命化修

繕計画」を策定し、修繕に要する費用・期間ともに大きい橋長15m以上の橋梁808橋について予防保全型の維持管理を行うこととしました。現在は、この計画に基づき、「埼玉県橋梁修繕アクションプラン（平成21年～平成25年）」を定め、比較的劣化の進んでいる186橋について修繕・更新を進めています。

#### (2) 排水機場の計画的な維持補修・更新

本県では、45カ所の排水機場を管理しており、初期に設置した排水機場は既に40年以上が経過し老朽化が進んでいます。排水機場は、万一その機能が停止すると周辺地域に甚大な被害を与えるため、洪水時には確実に稼働することが絶対の使命となっています。そのため、平成20年度に「埼玉県排水機場維持管理計画（平成21年～平成40年）」を策定し、停止すれば直ちに浸水被害に繋がる内水排水機場19機場について予防保全型の維持管理を進めています。

### 3. おわりに

本県の人口は約720万人。人口の密集する大都市もあれば、過疎などの課題に取り組む中山間地域もあります。また、産業も農業、工業からサービス業までバラエティに富んでおり、海がないことを除けば、埼玉はまさに日本の縮図といえます。

私は、この日本の縮図である埼玉県において、思い切った政策を実行し、その成果を全国へ情報発信していきます。